

## むさしの健幸アンバサダー による Health for All

研究員：中板育美、田中笑子、遠山寛子、  
佐藤睦子、橋本結花、渡邊千秋、廣瀬絢加  
山本摂子、峰友紗、明石修

学生：2023年度ゼミ生他 47名



「むさしの健幸アンバサダー<sup>1</sup>」は、人々の健康としあわせに関心を持つ学生が、活動を通して自身の健幸を創りだす力を高め、加えて学部横断かつ産官学民協働による相互作用を活用し、他者に健康情報を届ける力を育む活動です。

2023年度は、共創型アクションリサーチとして、看護学部地域・在宅看護領域と幼児教育学科のゼミ生と教員を中心に、健幸アンバサダーの養成、活動媒体の作成と認証、全国への媒体配信、健康教育実践を行いました。

- ・4月 オーラルヘルスのパンフレット配布  
(有明キャンパス、健康診断にて 2800部)
- ・8月 健幸アンバサダー養成講座開催  
(看護・幼児教育・経営・サステナビリティ学科より学生・教員計 48名養成)
- ・11月 日本公衆衛生学会にてロビー活動  
(子宮頸がん予防、幼児の外遊び等 300部)
- ・11月 健幸アンバサダー学生による授業  
(1年生 92名対象、子宮頸がん予防)

- ・11月 大学祭で健康教育(黎明祭 681名)
  - ・1月 成人式でパンフレット配布(F市)
  - ・3月 日本医療教授システム学会出展
  - ・3月 むさしの健幸アンバサダー交流会
- 地域在宅看護ゼミの学生は、最新の予防知識や情報伝達技術を学んだのち、2023年度は、「子宮頸がんについて考えよう」をテーマにしました。自分たちはなぜワクチン接種をしなかったのかを振り返り、作成したパンフレットは、認証審査を経て、全国の自治体や企業と協力しながら、健康に無関心な層へも届けています。中学生や高校生から「友だちに伝えたい」と反響を受け、活用されています。

「健幸アンバサダー活動」を通じて、身近な健幸を考える仲間を増やし、健康の享受を導くことは、健康の先にある Well-being(しあわせ)をカタチにするプロセスであり、SDGs ゴール 3 「Health for all」そのものと考えています。

認証審査に合格し全国配布されているパンフレット



<sup>1</sup> 健幸アンバサダーとは：健康に関する正しい知識などを身近な人に伝える健康の伝道師。自分自身と大切な家族や知人などに「心に届く健康情報」を伝え、健康づく

りの輪を広げていくもの。一般社団法人スマートウェルネスコミュニティ協議会主催の養成講座を受講し、公式に「健幸アンバサダー」の認定を受ける。